

## 事業概要

当館の事業は主に①企画展開催事業、②教育普及事業、③調査研究事業、④創造空間事業に分類される。以下、平成 29 年度において実施された各事業内容について概観する。

企画展開催事業は、「澤田教一展・懸命に生きる人々の、命の記録 -」（会期 7/29～9/3）、「越前戦国演義 - 戦雲の果てに -」（会期 9/30～11/5）、クリヨウジアートドキュメント（会期 11/23～12/24）という美術系 2・歴史系 1 の計 3 企画展を開催した。このうち、「澤田教一展」では、報道カメラマン澤田教一（1936-1970）が 1965 年から 1970 年においてインドシナで撮影した作品を展示した。ピューリツァー賞授賞作『安全への逃避』をはじめ、写真という切り取った一瞬によって戦争という過酷な現実を生々しく伝えた作品群は、来館者に「生きる」ことの尊さを強く訴えかけた。夏休み中に実施したことで、多くの子どもたちが来館し、「平和」の意味を考える機会を提供できたものと考えている。「越前戦国演義」では、戦国時代において越前国で展開された戦乱の歴史を、資料とパネル展示で解説した。当時の越前国を特徴づける一向一揆の動向と、誠照寺・證誠寺を中心とする反本願寺勢力との知られざる抗争の歴史については、来館者の興味を引いていた。「クリヨウジアートドキュメント」は、本市出身で当館名誉館長であるアニメーション作家クリヨウジ氏の絵画から立体まで多岐に渡る作品群を展示した。会場では市内園児・児童生徒約 250 人が制作したリレークレイアニメも上映され、来館者の目を楽しませていた。

教育普及事業では、夏休み企画である「まなべ DE わくわくアートフェスタ」（開催 7/23）のほか、歴史講座・アーツクルーズ（芸術体験講座）・講演会など館内外で 55 事業を実施した。「アートフェスタ」は美術・工芸・歴史・科学などの様々な分野のワークショップを体験できる事業で、毎年多数の子どもたちが参加している。各学校の協力により、ボランティアスタッフとして多数の高校生が参加しており、こうしたイベントの新しい形を提示できているものと考えている。また、市内小学校において歴史・美術合わせて計 13 講座の実績があり、ふるさと学習の場として当館が認識されてきたものと考えられる。

調査研究事業では、本市東部地区で現在も行なわれている厄払いの餅まき行事「おこない」について、平成 25・26 年度に実施した悉皆調査事業の報告をまとめた。詳細は本文に譲るが、北陸地方特有の浄土真宗がもつ反民俗的な性格によりこうした風俗がこれまで研究対象とならなかったという指摘は重要である。なお、「おこない」は平成 29 年 3 月 31 日付け指定第 158 号で鯖江市指定文化財となっている。また、当館のような築年数 40 年を超える施設では共通課題とも言える IPM（総合的有害虫生物管理）について、1 年間のモニタリング調査を実施し、当館の現状と課題を提示した。他館の参考になれば幸いである。

創造空間事業すなわち制作発表の場として展示室を開放する貸館事業は、38 事業が実施された。内容は、絵画・写真・工芸・生花など美術工芸分野にやや特化している傾向があるが、4 月から 3 月年度末まで年間を通して週末はほぼ展示室が埋まる状況であった。今後も、市民に開かれた博物館・美術館として展示スペースの開放を実施していきたい。